

市民のひろば

市民の皆様からいただいたお便りの中から、ご意見や情報などを紹介します。



マ イクローリズムのスヌメ

楽しんで使えます。知ってお店(場所)が紹介されていると嬉しいですし、新しいお店があると出掛ける楽しみができます。コロナで家の中で過ごす毎日ですが、少しでも楽しみが増える、そんな情報を心待ちにしています!!(Y・Mさん・女性)

コロナにより私たちの生活様式が大きく変化する中、鹿屋の魅力を再発見することをテーマに連載を開始した「マイクローリズムのスヌメ」。これまで、高隈と神野の豊かな自然や北田町・西大手町にオープンしたお店、串良に残る貴重な戦争遺跡など、家族や友人と気軽に行ける小旅行を提案し、多くのの人から反響をいただいています。これからは市民の皆さんに「知らなかった」「行ってみたい」と思ってもらえる市内の魅力的なスポットを紹介していきますので、ぜひご期待ください。

広

報かのやには色々な記事が載っており毎月楽しみに読ませてもらっています。休日救急当番医の情報などもとても助かっています。9月号ではごみの問題などを特集していて私たちが少しでもごみを減らすことを考えないといけないとつくづく思いました。(A・Hさん・女性)

本市は環境にやさしい循環型社会の構築のため、市民の皆さんにご協力いただき、これまで3R(リデュース・リユース・リサイクル)を進めてきましたが、1人当たりのごみ排出量はなかなか減少していない状況です。ごみを減らすためには、まずはごみを出さない工夫が大事で、ごみ分別一覧表や市総合アプリ「かのやライフ」のごみ分別事典等で確認して資源になるものは資源化しましょう。また、併せて3キリ運動(食ベキリ・使いキリ・水キリ)を行うことで、家庭から出る燃やせるごみの約40パーセントの減量化が期待できます。このように一人ひとりが意識して日々行動することで、ごみの排出量を大きく減らすことができるので「環境にやさしい鹿屋市」をみんなで目指していきましょう。

9

月号の「温故写新」で給食のシーンを見てみると、自分の思い出がよみがえるとともに、現在コロナ禍で普通の学校生活を送れない子どもたちにも元の生活に戻ってほしいと願うばかりです。私たちの生活も時代の流れにより、共働き、子どもの習い事等で食卓を囲む回数も昔より減少している中、保育所、学校での給食はたくさんの人と食事しコミュニケーションを取れる唯一の場所です。そんな日が戻ってくることを切に願います。(Y・Iさん・女性)

9月号(No.376)の「温故写新」では、59年前と現在の鹿屋小学校の給食風景を写真で紹介しました。今ではコロナ下により机を向かい合わせにして、友達との会話を楽しみながら食べる給食の時間は大きく変化し、正面を向いて黙って食べる「黙食」が主流となりました。会話は食後にマスクを着けてからとなり、食事中に話す際は口元に手を当てなくてはいけないなどのルールもあるそうです。にぎやかな給食の時間を経験してきた身としては少しかわいそうに思いますが、各学校では校内放送で子どもたちが好きな音楽を流したり、上級生がクイズを出したりと、黙食でも楽しめるよう趣向を凝らしているようです。

コ

ロナの中でも楽しめるイベントや体験の情報が多く、外出せずに考えたり、行ってみようと思う場所もあり楽しめました。早く外食やおいしいもの巡りをしたいですね。まだまだ時間はかかりそうですが、皆さん頑張りましょう!!(M・Hさん・女性)

本県にも9月30日まで「まん延防止等重点措置」が適用され、県内全域で不要不急の外出の自粛やイベント等の制限などが要請されました。感染者数は減少傾向にありますが、気を緩めることなく感染予防に努めていく必要があります。このような中、本市では11月以降、5,000円で6,500円分の買い物ができるプレミアム商品券の発行やキャッシュレス決済に対してポイント還元するプレミアムポイント飲食応援事業などを予定しています。コロナ禍の影響を受けている市内のお店をこの機会に応援しましょう。

かのやばら園・霧島ヶ丘公園

いま旬!



250万本コスモス花壇

霧島ヶ丘公園では、本土で最も遅い11月に楽しめるコスモス花壇を管理しています。日本最大級の「コスモス迷路」や錦江湾の夕日と一緒に楽しむことができます。